
~ sora ~ in blue sky

sora

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

「sora」 in blue sky

【Zコード】

Z0448

【作者名】

sora

【あらすじ】

過去に戻れたら…

すべてが思い通りになれば…

誰もが一度でも思つだらう。

それに反して時と現実は冷たく突き刺さる。

出会い

「フワア～、よく寝た……」

「ゲツ～もつこんな時間！？遅刻、遅刻～～！」

「ん？今日は雲一つもないじゃん。こういう時の空つて壮大だよな～。こんな日は何かいい事があつたりして。…なんて、んな訳無いか」

「グチョツ～～！」

「ダーツ！～～まじかよ。誰だよ犬のクソをこんな所にほかりっぱなしの奴は。ハア～。ついてねえな～。」

ないこの男の名前は碧井 空 湊川高校に通つ一年生だ。

朝からついて

キーンゴーンカーンゴーン

「おつ？ウイース、空」

「アア…」

「何だ？元気ねえな？悩みならお兄さんが聞くよ？」

空の一応親友？の神谷 陽一

小学校二年生からの付き合いだ。

「別に何もねえよ。」

「そうか、朝から犬のクソ踏んで猪木のマネしてるからついに頭がオカシクなつたかと思つてお兄さん心配だつたのよ？」

「イヤ、猪木つて…
ていうか見てたのか。」

「一人でダーツとかシャーとかいいながらクソを草になすりつけたら誰だつて頭のイタイ人だと思うだろ?」

「イタイ人でケツコーコケコツコー」

「うー、君

達。サッサと教室に入りなさい」

「さて、教室入るか」

「オーライ、スルーですか。」

一人が教室に入ろうとしたその時、先生の後ろには見た事のない女の子が立っていた。

「おい、空、転校生だぞ」

「あつそ」

「何だその冷たい反応は?怒ってるのか?怒ってるんだな?」

「ハイハイ。あつそと席につくわ」

この二人はいつもこんなやりとりをしている。

そして一人が席につく頃先生の横にはとても可愛らしいがどこか無愛想で少しゲッソリとした女の子がいた。

「えー、今日からこの学校に通う事になつた《七瀬葵》さんです。訳合つて年が君達の一つ上だが仲良くするよつに」

「七瀬です。皆さんよろしくお願ひします。」

「でも、一番後のあの席に座つてトセ。」

そう言つて先生が指を指した先は空の隣の席だった。

葵が歩きだし空の隣に立つたその瞬間、空の顔をじっと見つめそつと呟いた。

「空?」

「何でおれの名前知つてるの?」

「だつて…オトコ…俺の名前は空つて書いてある…」

やつこつと葵は少し微笑んだ。

「ウン…シ…マジで?」

空は慌ててトレイに駆け込もうと勢いよく教室を出て行った。

「ロラー鶴井…じいへ行くんだー!」

先生の怒号が飛び交つ中、陽一が口から切出した。

「ア…イ…ッ、オ…トコ…お…つ…あ…く『俺の名前は『空』つて書いたまま学
校に來たんですよ』

教室が爆笑の渦に包まれる。

その頃、トレイに駆け込んだ空は…

「アノヤロー！見てただけじゃなく、こんなガキみたいな事を何食わぬ顔して何事も無かつたかのように振る舞いやがって！」

「…許さん」

慌てて額の落書きを消そうとするが中々消えない。

消えた事を確認し、急いで教室に戻る。

陽水性ならまたしも油性で書也書かにて

やあ！お嬢様！ 僕の名前は『アーヴィング』

お腹にや回し鳴らすやうに

その状況を見ていて、ジビエをせんじた先生が一言

「二人とも廊下に立てなさい！」

八一

一人は声を揃えてこう言った。

そして、一人は廊下に立った後も、

「お前のせいだぞ」

「カワイイ子供のイタズラだろ？許してやれよ。」

「許すとでも思つてんのか？」

「」の一人のやつどつは教室にまで大きく響き渡つた。

「廊下の一人…ウルサイ…」

『ハイシ』

そして放課になり二人が教室に戻ると葵が興味深そうな顔で一人に話し掛けてきた。

「ねえ？一人つていつもこんな感じなの？」

「そだよ～！葵ちゃんてカワイイよね～ちなみに俺は陽～～・神谷陽一～つてこ～ます～♪うしへね～。」

あまりに軽い態度で接してくる陽一に少し引きたみの葵だった。

「よ、よろしく…」

その葵の様子を感じ取った空は。

「引いてんだろ～」めんね。え～と、葵ちゃんだけ？こいつ誰に対してもこんなだから悪く思わないでね。」

「やつなんだ？空君もこんな感じなの？」

「ちやっかり名前覚えられてるし…ひらやましげね～～こつま～つも空を眺めて独り言こつてる冷めた頭のイタイ子だよ～」

「二人は仲いいんだね」

「親友だからねー」

自信をもって「陽一」に對して空は冷めた眼差しで「笑ひ」た。

「やう思ひてるのは「イシダナ」」

「ほりー冷めてるでしょ？」

「アハハ。ホントだねーねえ、空君は空が好きなの？」

「まあ、一応……」

そこで陽一がツツコム。

「空だけに空が好き。」

辺りは静まり返った…

しばらく談笑した後に陽一は年が一つ上の葵に對してまた軽い態度で聞いた。

「葵ちゃんは何で年が一つ上なの？もしかして悪い子なのかな？」

軽い態度でそんな失礼な事を聞く陽一に對して空は少し怒りぎみに言った。

「おーー陽一ーー」

しかし葵は微笑みながら

「いいよ、空君。別に隠すつもりないから。」

葵は少し悲しそうな顔で切り出した。

「実は私、病気なんだ…。そのせいで小さい頃から入退院を繰り返してたの。だけど高校くらいは出ときたいなと思ってたんだけど、去年長い間入院しちゃって…。それでもまた二年生やる事になったの。あっ！でも、もう大分良くなつたから心配しないでね！」

突然 陽一が泣きそうな顔で

「俺達がついてるから頑張ろつなーー！」

「ありがと…陽一君。」

この時、この出会いから運命の歯車が大きく揺れ動き、崩れ落ちるとはまだ誰も知らない…

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0448j/>

~ sora ~ in blue sky

2011年1月15日20時41分発行